

# JBC 第43回全日本高校ボウリング選手権大会

7月29～31日/川崎グランドボウル

## 齋藤翔、原野萌花選手 ともに初制覇



▲優勝の齋藤選手(左)と原野選手



▲来年の世界ユースの代表選考にもいいアピールになると思つと齋藤選手



▲次の目標は、年末の高校対抗の連覇と原野選手

決勝 1G 目、原野選手は「レーンが速くて全然曲がらなかった」と151に終わり、水谷選手が9ピン逆転してトップに立った。しかし原野選手は2G目、ボールもラインも変えて224を打って再逆転、最終Gを192とまとめ、トータル2512で念願の優勝を飾った。水谷選手はペースが上がらず2693で2位、決勝で638を打った近藤菜帆選手(愛知県立三好高1年)が2477で3位に食い込んだ。

### 原野選手のコメント

水谷さんとは、いい勝負ができたらしいなと思っていた。去年の高校対抗の優勝はあるけど、個人でのタイトルは初めて。とくにこの大会は1年生のとき準優勝だったので、最後になる今年にかけていた。だから本当に優勝できてめちゃくちゃうれしい。うれしすぎて、逆に涙が出なかった。

でも、結果的に大きいスベアだった。

### 女子

予選1回戦に740を打った水谷秋穂選手(愛知県立中川商業高2年)が、2回戦は512と急ブレーキの間に逆転してトップに立った原野萌花選手が1945の1位で決勝進出、水谷選手は23ピン差の2位につけていた。

JOCジュニアカップ『第43回全日本高校ボウリング選手権大会』が、7月29日から3日間、神奈川・川崎グランドボウルを会場に、男子192名、女子109名が参加して行われたが、男子は齋藤翔選手(愛知県立鳴海高2年)、女子は原野萌花選手(福岡第一高3年)がそれぞれ初優勝を飾った。(主催:(公財)全日本ボウリング協会)

男女それぞれ予選9Gを投球、男子は上位28名、女子は20名が決勝に進出、決勝3Gの12Gトータルで争われた。

### 男子

予選1回戦を682の2位スタートの齋藤翔選手が、その後も安定した内容で2043の1位で決勝に進出、24ピン差の2位に橋本将希選手(神奈川・第一学院高横浜キャンパス)、さらに7ピン差の3位には両手投げの吉原正明選手(埼玉・県立川越西高)と、1年生の2人が健闘していた。

決勝は2Gを終わって齋藤選手が橋本選手との差を64ピンと開いて迎えた最終G、橋本選手が1フレから7連発で猛追。齋藤選手は「スタート前に、相手が300でも自分が240を打てば勝ちと頭に入っていたので、想定内だった」と振り返ったが、8フレは④⑨のスプリット。ここでオープンフレームを作ると、勝負の行方はわからなくなるところだったが、見事なスベアでピンチを切り抜け、トータル2736で、父親の齋藤茂雄プロ(42期)も果たせなかった高校

選手権のタイトルを手にした。橋本選手は2693で2位、吉原選手も2660で3位のポジションを守った。

### 齋藤選手のコメント

決勝は、橋本クンの練習ボールを見て、1年生ながらすごくうまいなと思ったので、たとえ抜かれても悔いのない投球をしようと思った。8フレのスプリットは取れたらラッキーぐらいの気持ちだったけど、相手に与えたダメージを考え



▲男子入賞者、左から優勝・齋藤、2位・橋本、3位・吉原、4位・甘利、5位・菅野、6位・村瀬の各選手



▲女子入賞者、左から優勝・原野、2位・水谷、3位・近藤、4位・小林、5位・諏訪、6位・八木の各選手

# JBC 文部科学大臣杯 第43回全日本中学ボウリング選手権大会

7月22～24日/キョーイチボウル宇治

## 紺谷涼太、石田万音両選手が決勝で 後続を突き放し初優勝



▲優勝の紺谷選手(左)と石田選手

3Gともマイナスの547(181、179、187)と失速。紺谷選手を上回る680(193、248、239)を打った3位進出(同1769)の谷口悠斗選手(大阪・宮原中3年)に4ピン差逆転を許してしまった。

優勝した紺谷選手はボウリング歴11年。始めたころから「サムの入った」変則ダブルハンドで、「曲げるというより押し込むイメージで」投げているという。予選2回戦では700シリーズ(238、255、215)を達成してハイゲーム賞も獲得。次は「出場が決まった茨城国体での個人戦上位入賞」を目指す。

### 女子

予選1回戦4位から着実に順位を上げ、9G1841でトップ進出を果たしたのは石田万音選手(兵庫・西神中2年)。決勝戦ものびのびと力強い投球でオール200アップの639(215、213、211)とスコアを伸ばし、後続を突き放して初優勝した。「最初から絶対優勝する、優勝できると思っていたので良かったです」(石田選手)

石田選手もボウリング歴11



▲変則の両手投げで全中を制した紺谷選手。決勝1G目で差が開いた後にはけつこう気楽に投げられました



▲女子決勝は男子決勝のあとで行われた石田選手のスコアを伸ばして行われた男子選手のライン取りとボールの選り択を参考にしていた

年。4歳で投げ始めたときの師匠・中谷優子プロ(28期)が2年時の全中で2位だったことを知るのと破顔一笑。「来年も優勝します。絶対連覇します」と、さらなる師匠超えを誓った。

一方、47ピン差の予選2位から逆転優勝を目指した全日本ユースナショナルチームの近藤真桜選手(群馬・西中2年)は、1G目こそ224で1マーク差を詰めたものの、2G目153、3

G目180とまさかのロースコアで4位まで後退してしまった。

代わって、近藤選手と1ピン差で3位進出の濱崎りりあ選手(神奈川・原中2年)が627(207、204、216)を打って一つ順位を上げ、3位には223、223、254でジャスト700シリーズ達成の溝田月輝選手(福岡・幸袋中3年)が予選9位から大まくりを決めて飛び込んだ。

夏休み恒例の「全中」が7月22日から24日の3日間、今年も京都・キョーイチボウル宇治で開催された。参加選手は男子120名、女子82名で、ともに予選1～3回戦各3Gを投球。計9Gトータルの上位各20名が決勝戦(3G)に進出し、計12Gトータルで男女別に「中学日本一」の座を争った(主催:(公財)全日本ボウリング協会)

### 男子

予選1位(9G1939)の紺谷涼太選手(北海道・帯広第五中3年)が、決勝戦でもオール200アップの676(246、205、225)をマークし、危なげなく逃げ切った初優勝を飾

た。「今回は表彰台(8位以内)が目標だったので、優勝できたのは素直にうれしいです」(紺谷選手)

対照的に、4マーク差(同1898)の2位で進出した長尾脩甫選手(福岡・鎮西中2年)は、



▲男子入賞者、左から優勝・紺谷、2位・谷口、3位・長尾、4位・津波古、5位・熊、6位・加藤、7位・永沢、8位・愛甲の各選手



▲女子入賞者、左から優勝・石田、2位・濱崎、3位・溝田、4位・近藤、5位・我孫子、6位・井崎、7位・小俣、8位・緒方の各選手